第3種郵便物認可

人とのかかわり苦手

オキナワ 子どもの今 □8□

引きこもり

「頼れる人ほしい」

長期間にわたり自宅や自室にこもり、社会的な活動に参加しない状態が続く引きこもり。県内の地域若者サポートステーションの調査では、学校に行かず、仕事にもついていないニートや引きこもりの若者が地域にいる、と答えた民生委員は30％を超えています。しかし、実態把握は難しく、支援に結びつけにくいのが実情です。学校や職場など社会の枠から外れてしまうと、若者や家族は孤立してしまいます。実家や親族の援助がない親子もおり、行政も含めた地域のネットワークづくりが不可欠です。

（社会部・嘉数よしの）

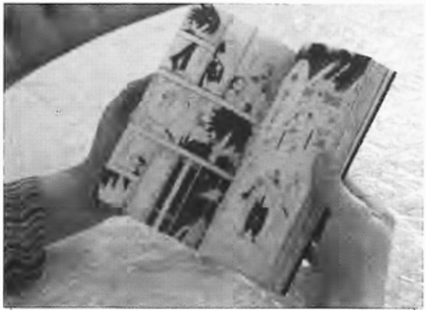
大学生のタカヤ＝仮名＝は、病気やストレスからこれまでに何度も引きこもっている。高校生の時に人間関係のトラブルに巻き込まれたことがきっかけだ。今も時々つらい体験がフラッシュバックする。

コミュニケーションが苦手。「不安を打ち消すために無理して、授業中もどうでもいいことをしゃべり続けていた。みんなそれが迷惑だったと思う」。結果、いじめられた。

それでも、学校は休まなかった。幼いころから、いい大学に進んで、いい仕事に就くんだと自分に言い聞かせていた。「体調や感情を無視して、勉強に打ち込んでいた」

だが、我慢は続かなかった。しばらくすると毎日「消えたい」と思うようになる。半年以上悩み、意を決して病院へ行くと、「うつと言われた」。

現役での大学進学はかなわなかった。元来記憶力が良く、勉強すればすぐに成績を上げることができたが、浪人している間も、ストレスで心身のバランスを崩してしまう。「家と予備校を往復する毎日で、きつかった。熱が続いたりもして、引きこもった」



気軽に相談できる地域若者サポートステーション。若者は漫画を読んだり、スタッフとおしゃべりを楽しみながら、不安や緊張を解きほぐしている＝3月、那覇市上間・サポートステーションなは

テレビを見たり、眠り続けたりの毎日。過食から体重は8㌔増えた。結局志望する大学は不合格になり、2浪することに。「それからずっと引きこもり、寝たきりになった」

その後、周囲の支えもあってなんとか引きこもり状態を脱し、大学に合格。希望を持って入学したが、ここでも周りにうまくなじめなかった。

理想の自分と、うまくいかない現実。「分かってほしいのに、分かってもらえない」苦しさが、何度もタカヤを襲った。大学を辞めようとも考えたが、自分を変えようと奮起し、講演会やイベントに出向いて、多くの人と接するよう心掛けた。家族や周りのサポートも大きく、少しずつ前向きになっている。

今は「人の和が広がるのが楽しくて、うれしい。家族や周囲に感謝している」とほほ笑む。

「将来は人のためになる仕事をしたい」との夢も描くようになり、NPOやメディアで働くことを通して人と人が支え合う社会づくりに貢献したい、と語る。今度は自分が支える番と実感する日々だ。

「引きこもりの人は頼れる人を求めている。気付いてほしい。自分を必要としてくれる、受け入れてくれる場所が必要。ただ、自分では動けないから働き掛けてほしい。引き上げにきてほしい」と訴える。

■深夜のドライブ

ある母親は、中学生のときから引きこもる子どもとともに深夜、ドライブに出掛けている。子どもはいじめから学校に行けなくなり、卒業後1年たつが、今も自宅からなかなか出られない。母親も学校に希望を見い出せなかった。

「親子でゆっくり落ち着いて話し合えるドライブの時間は、かけがえのない時間。本人も少しずつ元気になってきている」

今も「普通に中学生活を送ってほしかった」との悔しい思いは残る。「そう考えると気が狂いそうになる」が、「早く何かしてほしいという気持ちは捨てた。泣きたいなら、一緒に泣こう。泣いても前を向こうと話している。意欲を持てるものを見つけてほしい。今はそれを待つばかりです」と前を見据える。

■仕事へと橋渡し

若者の相談に乗り、仕事へ橋渡しする地域若者サポートステーションは、「働いてつまずいたため、人付き合いが怖い」「病気や引きこもりの経験がある」若者の駆け込み寺だ。県内には北中城村と那覇市にある。

「サポートステーションなは」は昨年開所した。広々としたスペースに漫画や本が並び、落ち着いて話せる場所もあるため、当事者や保護者が居場所を求めてやってくる。すぐには就労が難しい人向けにソーシャルスキルトレーニングや就業体験、学習支援、訪問支援もしている。

30代の男性は、以前職場の人間関係に悩み、しばらく引きこもっていた。「2、3年ももやもやしていた。早く仕事を見つけないといけないという焦りと不安があったけれど、ここに来て誰かと話すことで、気持ちが楽になった」と、穏やかな笑顔を見せる。別の男性も「コミュニケーションがストレスで仕事を続けられなかった」が、「自分と似た状況の人がいるから、ここは居心地がいい」と話す。

大城喜江子統括コーディネーターは「信頼関係ができつつあることがうれしい。スタッフを受け入れてくれて、とてもありがたい」と喜ぶ。「みんな働きたいし、社会に参加したい。それを支えることが私たちの役目。関係機関とのネットワークをつくりながら、支援の在り方、連携の在り方を探っていきたい」と意欲を見せる。

＝金曜日掲載

第三者の働き掛け

訪問支援の充実必要

若者が引きこもる背景はさまざまだが、支援関係者は、①発達障害がある②不登校③精神疾患④虐待、ネグレクト（養育放棄）の大きく四つの傾向があると指摘する。

「今のままではいいとは思っていない」「どうしたらいいか分からない」状態で、第三者が働き掛け、引き出す必要性があり、地域若者サポートステーションなど関係機関は、アウトリーチ（訪問支援）に力を入れている。

ある支援者は「ほっといてくれという若者もいるが、訪問しないと立ちゆかない。相談に来なさいというのは本人や家族にとってきつい。柔軟な相談体制が必要」と語る。支援員の養成なども進む。

引きこもりの若者は「いじめられた経験がある」「精神科などで治療を受けた」などの背景を持つ。保健や福祉機関の支援が必要なほか、学校の協力、関係機関の連携も不可欠だ。

「行き場」「居場所」として、サポートステーションなどができたものの、困難を抱える若者のための職場や、職業訓練の場の整備はこれからだ。

若者自立塾や地域若者サポートステーションを訪れた若者への調査では、約8割の人が続けて1カ月以上働いた経験があるとの結果が出ている。働く気持ちがないのではなく、うまくいかなかった体験から苦手意識が強まるという。

教育

教育に関するご意見や情報をお寄せください
社会部教育班
電話
098（860）3552
ファクス
098（860）3483

※火・木・金曜日に掲載します。

私の提言

サポートセンターゆめさき代表

上江田　紫寿江さん

安心できる受け皿が不足

―引きこもりの若者、子どもの現状は。

ひとり親家庭や経済的状況が厳しい家庭の子ども、若者たちが引きこもる例が多い。コミュニケーションを取るのが苦手で、職場での人間関係や病気など、さまざまな悩みを1人で抱えて家にこもってしまう。

不登校から引きこもりになる例も少なくない。学校で友人関係をつくれないことから苦しんでいる。

うまく自己表現できない子どもが増えていると感じる。苦しさを出し切れない。とても大切な概念が抜けていて、心と体のバランスが取れない。組織でうまくやっていくことが難しい子が増えている。

これは幼児体験の乏しさも影響していると感じる。困窮などから家族が十分に子どもに目をかけてあげることが難しい実情もあるが、早いうちから心を育てておかないと、大人になっても尾を引いてしまう。

最近はインターネットに依存する傾向もみられる。引きこもるとやることがないからネットもしょうがないと思っていたが、依存してひどくなるパターンがある。

―こういう子ども、若者にどういう支援をしてきたのか。

20年以上にわたって不登校の子どもたちを支援する中で、この子たちの行き場がないと感じ、受け皿としてサポートセンターゆめさきや、サポートステーション沖縄などを立ち上げてきた。

学校など社会の枠から外れると、生きづらい。子どもたちがうまく社会に乗れるように、さまざまな仕組みを使って、受け皿を増やしてきた。

ただ、子どもたちが安心できる居場所が足りない。食事したり、眠ったりできるシェルターのようなものが必要だと思う。自然と触れ合ったりする体験も必要。さまざまな体験を積み重ねることで、自己表現を身に付けていく。

母子加算など、子どもへの手当が18歳で終わってしまうのも見直してほしい。18歳で自立できればいいが、そうでない場合もある。現状からすると、20代で引きこもりになるケースが多いので、もう少し子ども、若者を手当てしてほしい。

―支援をどう充実させていったらよいか。

今は、引きこもりの若者、子どもたちの背景が複雑で、不登校やいじめが引きこもりの原因、とひとくくりにできない。学校、家庭、地域、民間がうまく連携して支えていく必要がある。連携すれば乗り越えられる。

親や家族の支援も大切。どこともつながることができず、親も苦しんでいる。そんな中で子育てするのはとても厳しい。どうにかなる、と子育てしても、子どもはきちんと目を掛けないとどうにもならない。

支援の際は一人で抱えず、別の機関、専門家につなぐことも大事。ネットワークをつくり、情報を共有して、早めに支援することが大切だ。

21、22の両日、那覇市の沖縄大学で「第55回子どもを守る文化会議・沖縄集会」が開かれます。この連載では、集会に向けて毎回テーマごとに県内の子どもたちの現状を見つめます。集会のホームページは、http：／／www.kodomo.libre-okinawa.com／